

# 3 小山田緑地・奈良ばい谷戸コース

★ 初級 行程：約7.0km



**1 扇橋バス停から小山田緑地へ**  
バス停先の信号からの道は田んぼを左手に見て西へ。まもなく道はカーブし、今度は右手に田んぼを見て道なりに進むと小山田緑地入口に至る。

**3 みはらし広場**

小山田の牧の遺構といわれるこの広場からの眺めは絶景。連なる丘陵の向こうに丹沢山系と晴れた日には富士山が望める。



**2 小山田緑地運動広場(小山田の牧)**

サービスセンターから道を上ると運動広場の原っぱに出る。このあたりは中世に小山田氏の牧場があったと伝わる。



**4 小山田の谷**

小野球場から雑木林を越えて小山田の谷に下りる。細長い谷戸にかつては田んぼに引かれた溜池、上池、下池、調整池が連なる。



**5 6 奈良ばい谷戸**

小山田緑地の駐車場の向かいに道路を挟んで広がる。この谷戸は10年ほど前まではカヤに覆われていたがボランティアにより再生され、今は田んぼや畑の里山風景が広がる。



雑木林の丘陵と谷戸がおりなす里山は、もともと農家の生業の場でした。谷戸とは丘陵から流れ出る清流によって浸食されてきた谷状の地形のこと。人びとは谷戸を田んぼとし緩斜面に畑を耕し、雑木林で薪を切り炭を焼き、落ち葉を田畑の肥料として暮らしてきました。しかし1960年代以降、石油燃料や化学肥料が普及し、また生活の変化もあり里山は放棄されてゆきます。

そんななか多摩丘陵でかつての里山風景を最もよくとどめるのが、町田市北部の小山田地区や函師・小野路地区です。この雑木林や谷戸も一度は荒れていましたが、現在は地域の人やボランティアによって再生がなされ、あるいは里山公園として管理されていることで、いわば東京の里山の原風景ともいえる景観や動植物に出会うことができます。

## 小山田緑地と東京に残る里山の原風景、奈良ばい谷戸を訪ねて



**7 見晴らし広場**

二つめの道標から70mほどの分岐路を右折し、畑を右手に見て進むと間もなくこの広場に出る。ベンチがあり眺めがよく休憩には絶好。



**8 斜面の畑(貸し農園)**

斜面に広がる山の畑は小さく区画された貸し農園。さまざまな野菜がとられている。



**9 萩生田牧場**

丘の上に牛舎があり牛の姿も見える。付近は下に畑が広がり眺めもよい。



**10 萩生田牧場下**

斜面には懐かしい農村風景が見られる。この道を下って道に突き当たったら引き返すように右に折れる。



**11 六地藏**

雑木林の道端にひっそりと佇む。六地藏はもともとお地蔵様が6つのお地蔵様が6つ(六道)の人びとを救うという信仰にもとづく。



**14 地藏祠下の谷戸**

小野路の町を右折して進むとお稲荷さんがおり分岐路に至る。右手に関屋の切通し(布田道)があり、左手に谷戸が広がりその先に地藏祠がある。

**Study 新選組と小野路宿**

小野路宿は新選組ゆかりの地でもある。資料館になっている江戸時代の名主小島家には天然理心流の出稽古場があり、幕末の当主の日記によると近藤勇が36回、土方歳三が11回、沖田総司が12回剣術指南に訪れている。彼らはその後、京都に上り新選組を名のることになる。資料館では近藤勇の稽古着や肖像画、手紙をはじめ数々の資料が目に見える。



**13 小島資料館**

古くからの宿場であった小野路は街並にその面影を残し、特に小島家は立派な門塀が屋敷を囲み歴史をしのばせる。ここは資料館として新選組資料や地域資料を展示する。

●開館：毎月第1・第3日曜13:00~17:00、冬季(1~2月)休館 ●入館料600円、小学生300円

**12 小野路宿里山交流館**

江戸時代に小野路宿にあった旅籠を改修した町田市の施設。食事ができ散策コースやバス時刻などの情報も得られる。

●営業9:00~17:00

